

新総合計画調査特別委員会

(平成30年10月30日)

○ 諸岡 党委員長

それでは、定刻を過ぎましたので、まだ若干おそろいでない方もいらっしゃいますが、新総合計画調査特別委員会、第2回目ということで開催をさせていただきます。

では、インターネット中継を始めてください。

なお、本日、樋口龍馬委員につきましては欠席でございますが、念のため申し上げておきますが、この日程調整の段階でどうしても都合が悪いという中で無理やり強行させてもらっておりますので、その部分につきましてはご斟酌いただきますようよろしくお願いいたします。

では、事項書に基づいて進めていきます。

まず、きょう皆さんのタブレットに配信させていただいておりますけれども、次期総合計画の策定に関する資料をアップさせてもらっています。

それにつきましての説明をお願いします。

その後、質疑をしまして、きょうのところはその資料に関する質疑のみと、その後、今後の進め方について皆さんにご協議をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

では、理事者の方、ご説明をお願いいたします。

○ 館政策推進部長

まず冒頭、ちょっとご挨拶をさせていただきます。

まず、この総合計画調査特別委員会のほうでございますけれども、設置をいただきましてありがとうございます。まず御礼を申し上げます。

今回、2回目で私ども理事者、初めて出席をさせていただくことになりました。今後ともどうぞよろしくお願いをいたします。まず、その1点でございます。

それから、総合計画でございますけれども、ご承知のように1年を前倒しして2020年—ちょうどオリンピックの年でございますけれども—をスタートとする総合計画を策定するために作業を開始したところで、まだ中身については、緒についたばかりでございますけれども、今作業を進めつつあるという状況でございます。

この総合計画でございますが、おおむね10年に1回、改定しながら市の基本的な方向性

を定めていくものでございますけれども、やはり計画、実効性のあるものにしていかないといけないと思っております。実現していかなければいけないと思えます。

そういった意味で議会の皆様方と十分議論をして、本当に実施できるものにしていきたいという思いでございますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

本日は前回の、これまでの総合計画が振り返りであるとか、今後の予定といったようなところをご説明させていただきますので、また、ご意見を頂戴できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 諸岡 党委員長

ありがとうございます。

それでは、説明をお願いいたします。どうぞ。

○ 伊藤政策推進課長

政策推進課長の伊藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の資料についてご説明させていただきます。

なお、本日の資料につきましてタブレット配信させていただいておりますけれども、A3の資料につきましては、お手元に配付させていただいております。配布しています資料としましては策定スケジュールと別冊1と右肩に記載しています現総合計画60の重点的施策の一覧表の2点となっております。

それでは、済みません、1点が今お配りですけれども、タブレットのほうでご説明させていただきたいと思えます。

タブレット、コンテンツ一覧の14特別委員会、04新総合計画特別調査委員会、01平成30年10月30日、02資料になります。

○ 諸岡 党委員長

進めてください。

○ 伊藤政策推進課長

それでは、タブレット、17分の1ページは資料の表紙、目次となっております、まず、最初に次期総合計画の策定について、それから、策定スケジュール、現総合計画の検証に

ついて説明させていただきたいと思います。

ここまでの資料は8月28日に開催しました第1回策定委員会の資料と同じものとなっております。その後、総合計画策定委員会第1回の概要、シンポジウム、それから、現在の分野別検討会議の状況について、最後に順序が表紙と異なりますが、市政アンケートを説明させていただきたいと思います。

全部で7点の項目になりますので、よろしく願いいたします。説明時間のほうは20分ほどを考えておりますので、ご了承願います。

1枚めくっていただきまして、タブレット、17分の2ページをごらんください。

まず、1としまして、策定の趣旨となります。

総合計画は本市の目指す将来像を描くとともに、その実現に向けて総合的かつ計画的なまちづくりのあり方を示すものということ、また、都市のビジョンでもあり、そのビジョンを実現するために行政だけではなく、市民、各種団体、企業など地域を構成する全ての主体が連携・協働していく必要があること、なお、人口減少・少子高齢化など本市を取り巻く状況が大きく変化している中で持続可能なまちづくりを行っていくため、明確なビジョンと戦略的な計画を策定することが重要となってまいります。

これらの状況を踏まえまして、平成32年度までを計画期間とします現行の総合計画の終了を待たず、新たな総合計画を策定していきたいと考えています。

なお、IT関連企業の大型設備投資に支えられ、市税収入が好調です。しかしながら、急減するリスクも十分に認識しまして、最小の経費で最大の効果を上げること並びに選択と集中による重点施策の展開といった観点から取り組んでいきたいと考えています。

続きまして、2、構成・期間になります。

本市の総合計画の構成におきましては、一番下段にあります枠囲みになりますけれども、市民自治基本条例の第18条におきまして、基本構想、基本計画、推進計画の3層構造となっております。皆様ご承知のとおりでございますけれども、そのうち基本構想、基本計画については議決事項になります。

タブレット、17分の3ページをごらんください。

次に、3の策定体制になります。

市民の代表である市議会様を初め、会議体の設置、多様な手法による市民参画を通して市民、企業、団体の方々と一緒に新しい総合計画をつくり上げていくことを基本に、  
(1)には総合計画策定委員会としまして学識経験者、企業、自治会、市民活動等を行っ

ている方々21名で構成しております、――後ほど委員についてはご紹介いたしますけれども――この策定委員会では市の作成する計画案に対して意見を述べ、議論をすることとされています。

次に、（２）分野別施策検討会議になります。

この会議では、五つの分野に分けて各分野にアドバイザーとして、学識経験者に就任いただいております、市内部としては若手・中堅職員、それから、各部局の政策推進監とともに検討を行うこととしまして立ち上げています。

各分野のアドバイザーは記載の５名の方となっております。

（３）庁内の策定会議でございます、総合計画の策定の立案や策定及び総合的な調整を行う市の庁内組織としまして、市長、副市長及び各部長等で構成しているものでございます。

（４）には市民参画としまして、シンポジウムを初め、懇談会などの機会を通して、幅広く市民の意見をいただきながら取り組んでいきたいと考えております、下段の模式図が全体の体制となっておりますけれども、青色の市民のところでは７項目ほど記載しているような市民参画の手法を行っていく予定です。

続きまして、タブレット、17分の４ページをごらんください。

策定に向けたスケジュールとなっております。お手元にも紙面で配付させていただいておりますので、どちらかをごらんください。

上段ですけれども、市議会の皆様とは特別委員会等におきましてご協議いただきながら2019年度、来年度の11月定例会議会におきまして、基本構想、基本計画の審査を賜り、推進計画におきましては、議決を賜った後の1月の議員説明会で説明させていただいた後に、2月定例会議会において当初予算案として審査を賜りたいと考えています。

また、先ほど説明しました策定委員会につきましては、第1回目を8月28日に開催したところです。次回、第2回につきましては本日のこの特別委員会が次回は12月20日となっておりますが、その2日ほど前の12月18日に行う予定としています。

その後、策定委員会につきましては第3回を2019年3月に予定し、ここで第一次の案を取りまとめ、第4回を年度が変わって2019年度の6月に第二次案として取りまとめ、10月の第5回におきまして総合計画案として取りまとめていきたいと、その後の11月定例会議会の審査につなげていきたいと考えています。

そして、最後に議決いただければ1月の第6回策定委員会において、最終の報告をして

いくというスケジュールとしています。

なお、策定委員会下段の意見聴取、市民参画につきましては記載のとおりでございます、シンポジウムにつきましては12月25日にキックオフとしまして開催させていただき、その後、さまざまな機会を通して市民参画に取り組み、最終的には2019年7月ごろにシンポジウムで市民への周知を行い、パブリックコメントにつなげ、先ほど申しました第5回の策定委員会へと進めていきたいと考えています。

以上が総合計画の策定等になります。

続きまして、タブレットに戻っていただきまして、17分の5ページをごらんください。

1の検証の取り組みのところでございます。

現四日市市総合計画につきましては策定後、推進計画によって各事業の進捗を図ってきました。

その評価・検証につきましては、第三者の視点から評価・検証をするために外部の委員約10名で構成する政策評価検証委員会を設置し、進めてきたところでございます。

2、第1次推進計画に対する総括的な評価のところをごらんください。

第1次推進計画の評価としましては、おおむね着実な進捗と達成と言えますが、少子高齢化の進展がより深刻化すると考えられることから、第1次推進計画をただ延長していくことは許されないといった趣旨のご意見をいただいたところでございます。

タブレット、17分の6ページをごらんください。

3としまして、第2次推進計画の評価としまして、各事業の自己評価を見ると本来目的に対する成果への評価であるべきはずが活動への評価になっているといったご意見もいただいているところでございます。

また、市役所内での横の連携、事業通じた各地域、市民との間にも連携が必要といった取り組み姿勢に対するご意見をいただいているところでございます。

続いて、4の現総合計画の総括的な評価・検証のところです。

総括的な評価・検証につきましては、これまでの政策評価検証委員会による評価・検証を踏まえつつ、各部局が総合計画に記載された取り組みに対し全体的に評価することとしました。後ほど説明いたしますが、各施策の実施及び進捗状況に関する総合評価または今後の方向性を記述し総括的な評価・検証を行い、次期総合計画の策定につなげていきたいと考えています。

タブレット、17分の7ページをごらんください。

5、現総合計画の検証、進捗状況の集計結果になります。

現総合計画では、五つの基本目標、その下に19の基本的政策、さらにその下に69の重点的施策を掲げ、取り組みを進めてきました。

(1) の下記表は各部局が検証した内容を集計したもので、現総合計画の進捗状況、残された課題の整理を行うための準備資料となります。

表をごらんいただくと一番下段の計の欄を見ていただきますと、69の重点的施策に対しまして280の実施施策がございます。その中で二重丸という成果が上がっているものが95、丸の成果が上がっているけれども一部課題が残っているというものが174と両方で269となります。

タブレット、済みません、17分の8ページをごらんください。

その二つでおおよそ96.1%を占めることから、上段の枠内にありますようにおおむね順調に進捗できるとの一定の成果が見られるのではないかというふうに考えてございます。

一方で、(2) では指標・数値目標のところになります。

第1次推進計画、第2次推進計画では、いずれも数値目標を達成した項目が4割弱となっておりまして、目標が達成した項目については次の総合計画、推進計画でさらに高い目標を設定するなど、各部局が着実に施策の推進に努めていく必要があります。

これらのもととなる資料としまして、別冊1と別冊2の資料がございます。申しわけございませんが、お手元の紙面、A3の資料なんですけれども、別冊1をごらんください。

別冊1、1枚めくっていただきまして、この別冊1を集計したものが先ほどの17分の7ページの集計の結果表となっております。

この資料、41分の2ページをごらんください。

左からナンバー、基本目標、基本的政策、重点的施策、施策の内訳数、それから、主な事業・取組、成果、課題、それから総合評価、今後の方向性というふうに記載してございます。

この重点的施策の欄には記載の文書がございます。こちらにつきましては、総合計画の文書をそのまま抜き出しているもので、政策の内訳数10というふうにその横に書いてございますが、この数値に対しまして総合評価とか今後の方向性の欄に数字を記載していますが、その10のうちそれぞれの内訳というふうになってございます。

今後の方向性の右側にページ番号というふうに記載しておりますが、この表は別冊2の該当するページ数というものを記載しているものでございます。

申しわけございませんが、タブレットをコンテンツ一覧のほうに戻っていただきまして、コンテンツ一覧の一つ前に戻っていただきまして、03別冊2というものをごらんいただけますか。

こちら、最初が表紙になってございまして、2枚めくっていただきますと、587分の3ページ、それから、587分の4ページというのが一つの事業に対して評価を記載させていただいているものとなっております。

私どもとしましては、この別冊2というものの作成をまずさせていただきまして、その集計を先ほどのA3の別冊1というものにまとめさせていただきまして、さらにその結果の集計を先ほどの資料の17分の7ページに結果としてまとめるという作業を積み上げてきたものでございます。

さらに、指標・数値目標については、同じくこの別冊2の572ページ、大分飛ぶんですけど、後ろのほう、587分の572ページからが数値目標の関係となっております。

この集計結果をこちら先ほどの数値目標、本日の本資料17分の8ページの結果の表としてまとめたということの参考の資料となっております。

済みません、続きまして、タブレットをもう一度、一つ戻っていただきまして、先ほどの02資料の17分の9ページをお願いいたします。

ここからは、8月28日に開催しました第1回策定委員会に関する報告となります。

委員につきましては現計画のときと同様に各部局との調整の上、学識経験者を初めまして、自治会連合会、商工業、人権、男女共同、多文化、農商工などの各分野から参画いただいております。

なお、委員長には中部大学総合工学研究所、名古屋大学名誉教授の林良嗣委員にご就任いただいたところでございまして、また、副委員長につきましては商工会議所会頭の種橋氏にご就任いただきました。お二人とも四日市市ご出身ということで、四日市市に非常に縁が深い委員でございます。

タブレット、17分の10ページをごらんください。

第1回の策定委員会における各委員の意見概要をまとめさせていただいております。

主なものとして紹介させていただきますと1番の林委員長からは、市民の幸せを物差しに捉え、都市のストックやメカニズムをどう変えていくかといった意見、2番の種橋副委員長からは、市の強みを強化し新たな分野へチャレンジすることが成長につながることで、また、高速道路リニアといったインフラの活用の方角性などについてご意見をいただ



きました。

4番の文化協会理事長の荒木委員からは、文化に関して子供への継承の必要性、済みません、タブレット、17分の11ページをお願いします。

6番の三重交通の水谷代理委員からは、バスの定時性の確保のため道路整備の充実の必要性、7番の近畿日本鉄道の小川代理委員からは、駅周辺に生活を支える施設の必要性、9番の地区防災組織連絡協議会副会長の田中委員からは、北勢地域は県南部に比べまして防災意識が低いとの危惧の意見、タブレット、17分の12ページをお願いいたします。

11番の諏訪（栄町）地区街づくり協議会副会長の野村委員からは、次の10年間の新しい時代のイメージの具体化の重要性、15番のNPO法人体験ひろば☆こどもスペース四日市代表の水谷委員からは、子供の虐待の増加を危惧する意見。タブレットは17分の13ページをお願いします。

16番の多文化共生推進市民懇談会委員の宮西委員からは、外国人への社会教育の必要性、19番のさくらベリーズガーデン園長の山原委員からは、高齢者への農業への参画として人材のマッチングの必要性、タブレット、17分の14ページをお願いします。

20番のスポーツ推進委員協議会書記の渡邊委員からは、スポーツに関しまして市民目線に立った行政支援の必要性、最後になりますが、21番副市長の藤井委員からは、職員が将来的によかったと思える計画を策定していきたいとのご意見をいただいたところでございます。

続きまして、タブレット、17分の15ページ、16ページをごらんください。

こちらで11月25日開催予定のキックオフシンポジウムのチラシを添付させていただいています。シンポジウムのプログラムとしましては、17分の16ページですけれども、市長の挨拶後、策定委員会委員長であります林先生から基調講演としましてご講演をいただき、その後に100名の市民に参画をいただきまして、5分野に約20名ずつに分かれていただき、分科会を開催し、四日市のいいところを語り合おうというテーマでどういう四日市にしていきたいのか、総合計画策定スタートの段階から、市民の皆様の率直なご意見を賜りたいと考えています。時間としては約80分行う予定です。

全体ですけれども、午後1時半から16時の2時間半を予定しています。

当日、基調講演時には議員の皆様のお席もご用意しますので、ぜひ参加いただきますようよろしくお願いいたします。

参考ですが、この100年の市民参画につきまして現時点で17名の方がご応募、参加を申

し込んでいる状況でございます。

次に、タブレット、17分の17ページをごらんください。こちらでは分野別政策検討会議の各分野の状況でございます。

各分野のメンバー構成とこれまでの開催状況を記載していきまして、全分野とも記載はしてございませんけれども、6月から8月にかけてアドバイザーを含めた市内の視察を通して現場を確認していただき、その後、開催しました会議の日時を記載しているものでございます。

それぞれの分野でこれまで3回の会議を開催しており、現時点では課題の整理や今後の方向性について議論を深めている状況です。

済みません、最後になります、タブレット、済みません、もう一つ戻っていただきまして、表紙のほうに戻っていただきまして、05別冊3のほうをお願いいたします。

こちら、毎年行っています市政アンケートですが、こちらの14分の11ページを見ていただきますと、次期総合計画の策定についてということで5分野を紙面の関係上、三つの質問に分けさせていただきまして、市民の関心の高い分野を確認するために将来に向けて力を入れて取り組むべきということをお聞きしているものでございます。

説明のほう、大まかに以上となります。

なお、次回12月20日のこの特別委員会では人口の推計であるとか、前回の策定時の調査の特別委員会でも提出しましたいろんな分野の基礎資料、それから、今やっておりますアンケートであるとか、11月25日に開催しますシンポジウム等の意見を整理するのと、また、分野別政策検討会議で議論されている状況も踏まえまして、議会の皆様とご議論を深めていければと考えていますのでよろしくをお願いいたします。

説明のほうは済みません、長くなりました。以上となります。

## ○ 諸岡 党委員長

ありがとうございました。

それでは、質疑に移ってまいります、まず、ちょっとご注意いただきたいのがこれまでの重要政策69件、これの詳細、報告をいただいておりますが、これについての個別具体的な質疑はちょっと避けていただきますようお願いいたします。

では、ご質疑、お願いいたします。どなたからでも結構です。

○ 小林博次委員

ちょっと気になっている点があるんやけど、策定委員会の最後が……。

○ 諸岡 党委員長

できたら資料、どの資料かちょっと言っていただけますか。

○ 小林博次委員

スケジュールの、A3でもらった資料。

○ 諸岡 党委員長

どうぞ。

○ 小林博次委員

来年の鬼が笑うかもわからんけど、12月の議会で基本構想を議会で策定する。

ところが、この策定委員会は1月の初旬ぐらいに第6回の総合計画の最終報告をすると、こう書いてあるんやけど、多分我々とこれ、同じことを議論するような感じにこれ、思えるんやけど、その辺の整合がどうやって図られるのかがちょっといまいちよくわからんの、その辺だけ整理して聞かせてほしい。

○ 諸岡 党委員長

いかかでしょうか。

○ 伊藤政策推進課長

政策推進課長の伊藤です。

この議会のほうは2019年度11月定例月議会で審査、議決を賜りたいというところは記載のとおりでございます。

その前に策定委員会のほうでは第5回策定委員会で案として取りまとめ、この議会に諮っていきたいというふうに考えてございます。

そして、第6回の策定委員会、1月になってございますのは、11月定例月議会のほうで議員の皆様からいただいた意見等も含めまして策定委員会のほうへ報告していききたいとい

う趣旨で、このような時期に設定させていただいているというものでございます。

以上です。

#### ○ 小林博次委員

これを読めばそれはわかるけど、普通は議決してくれという案件であれば、民間のほうを先に終わって、その意見も踏まえて議決していくということが普通と違うかなという気がするんやけど、そのあたりがちょっと違うと思う。

#### ○ 館政策推進部長

ちょっと課長の説明が不足しておりました。

基本的に第5回の策定委員会で策定委員会からの意見の集約はここで終了させていただいて、それでもって議会のほうに案を提示させていただきます。

そして、議会のほうでは、——前回もそうだったんですけども——当然中身について最終集中討議すると内容が変更、修正という部分もございます。前回も幾つか修正をしながら最終議決を賜りました。

その結果をそれまでご尽力いただいた策定委員会のほうに報告するというだけでございまして、あくまで計画は議会の議決をいただいたもの、これが最終決定でございます。

この第6回の策定委員会は、その内容を報告するというために設定しているということでございます。

#### ○ 諸岡 覚委員長

よろしいですか。

他に、いかがでしょうか。

#### ○ 豊田政典委員

現在の総合計画を検証した上で次期の計画をつくっていく、そういう流れなんですけれども、資料の17分の6に策定委員会の意見として上から二つ、3番の第二次のほうの本来目的に対する成果評価であるべきだけれども、事業完了できたかどうか、こういう自己評価なんて要るんじゃないの。

その次もそうです。本来目的と同じだと思いますけど、その目的達成に効果があったか

を深く検証して次に行くべきだと、こんな意見です。

この意見を読んだときにまさに私も同じ思いで、決算審査でも同じことを言い続けたんですけども、ついつい本来目的を忘れがちになるのではという思いです。

そこで、17分の7以降に7、8と達成率であるとか、二重丸幾つとかあるんですけども、せめて基本的政策、現在19あるじゃないですか。これがどれだけ達成されているのかという、そういう検証が私は必要だと思うんですよ。それが各69の重点的施策の積み上げでもいいと思いますが、ある程度見えてくるとは思います、19の基本的政策が現状どれだけでできていないので次にどれだけ力を入れていくか、こういうステップがあるんだと思って聞いていますので、そのあたりの、先ほどの意見に対してもどう考えておられるのかな、それだけ確認させていただきたいなと思いました。

#### ○ 諸岡 党委員長

いかがですか。

#### ○ 館政策推進部長

まず、その活動、事業を実施したか、しなかったかというだけじゃなくて成果ということ、この前も決算議会のほうでそういう動きがありましたわけでございます。

そういったことから、総合計画には、これこれこういうふうな重点事業を実施していきますということの施策や事業の重点施策を書く一方で、それら事業、施策を実施した上でどういった指標がどんなふうになるかということでの成果指標も置いております。

17分の7はどちらかというと重点施策が例えば69あって、実施施策が280あるうちに実際に実施できたが二重丸で、丸も含めて確認できた、それらは実施したということ。

じゃ、成果はどうかといった場合には右側の17分の8、それぞれ推進計画時に基本目標ごとに成果指標がございまして、その成果指標がどれだけ達成されたかということが、右側の17分の8ページのほうがいわゆる成果指標ということになってございます。

現時点での我々の評価としましては、その280ある実施施策のうち269は二重丸、丸ということで事業としては着実に実施してきているというふうな認識でございますけれども、成果指標については、まだ完全に終わっていないという状況でございますので、まだまだ成果指標のほうは未達成のものが多いう状況でございます。

従いまして、我々としては事業の実施がどういう状況かということと、成果指標がどう

いうふうになってきているのか、その両面から最終的に評価しなければならないと思っておりますが、まだ、途中段階ということで成果指標のほうがまだ数字が上がってきていないという状況なのかなというふうに認識しております。

○ 豊田政典委員

私もそういう視点でぜひこの委員会に臨みたいと思っておりますから、何らかの形で未達であるところがわかるように資料提供していただければありがたいと思いました。

○ 諸岡 党委員長

次回、その資料をまた出していただけますか。

○ 伊藤政策推進課長

今回、別冊1としてまとめさせてもらったものをもう一度集約し直しまして、基本的政策の中でもわかるような資料を次回に提出させていただきたいと思っております。

○ 諸岡 党委員長

結構です。

○ 藤田真信委員

豊田委員の話にもありましたけれども、検証ということがまず大事だということはあるんですが、ちょっと基本的なことを教えていただきたいんですけど、資料の別冊2のほうでそれぞれの施策に対する評価とこれから評価を検証していくということなんでしたけど、それとあと、方向性と書いてありますよね。

この方向性というのは結局、一番最初の資料のところの、この策定についての方針みたいな中の話で一番最初ですね。策定の趣旨ということでもろもろ書かれてあって、一番最後に選択と集中による重点施策の展開といった観点から取り組んでいきますとかというふうに書かれているんですが、ただ、——今ちょっとこの細かい具体的な話には入ってきませんが——この別冊の総合計画のそれぞれの一覧のところには総合評価だけじゃなくて、右側に今後の方向性ということでまとめていただいておりますが、そこで数を数えたら拡大が合計280のうちの37で、継続が218で、縮小が5、完了が20というふうだと思うんです。

また、これ、資料として簡単にお示しいただければと思うんですが、選択と集中とかというふうな割には、――完了は前回の計画で終わって一定の成果を得て、あれということはあるかもしれないですけども――何かしらの課題があって縮小というところが5施策しかないんですよ。

この辺の検証というのは、この委員会のほうでもやっていくことになるのか、その辺だけちょっと、どちらにお伺いすればいいかわかりません。

○ 諸岡 覚委員長

それはこの委員会の仕事ではないと思っています。

○ 藤田真信委員

そうすると、ちょっと今後の方向性という部分で、選択と集中が本当に図られているのかなという疑問が湧くんですが、その辺だけご答弁いただければ。

○ 館政策推進部長

この中で拡大あるいは継続といった形で評価しているものについては、次回の計画の中にもある一定、盛り込んでいきたいと思っておるものでございます。

それに新たな新規事業であるとか、新たな課題に対するものもつけ加えながら、新たな計画にしていまいります。

その段階で、例えばこちらでご議論をいただくときに、これは継続事業の内容です、これは新たなものですよというようなあたりをメリハリをつけてお示ししながら、この場でご議論いただいて、この評価についてご議論いただく場はないかもしれませんが、新たな計画の中にそういった形をお示しして、そして、じゃ、この継続とは拡大は必要ないんじゃないかというようなご意見があればそれは頂戴して、また、それをもむというような形で新たな計画の案の中でそういったことがわかるように、これまでやってきているやつ、継続事業なのか、それとも新規なのかということをきちっと明確にお示ししながら議論させていただければ、今のご懸念が晴れると思いますのでそういったことに気をつけていきます。

○ 諸岡 覚委員長

よろしいですか。

他に、いかがでしょうか。

## ○ 谷口周司委員

ちょっと教えていただきたいんですが、前回の10年前の策定のときのちょっとスケジュールとか全然わかんないんであれなんですけど、この市民参画というところで、前回と今回で何か新たに取り入れてもらったこととかあればちょっと教えていただきたいんですけど。

## ○ 館政策推進部長

それでは、資料のほうの17分の3の体制が書いてあるところがあります。

02資料の17分3、下にカラーで策定体制というのが書いてございますが、左側の市民というところが市民意見を頂戴する場面でございます。

前回と違うところは、まず、シンポジウムについては、前は事前に1回で、策定された後、2カ月後か3カ月後に1回という、策定された後にまた1回やったんですが、今回は事前に2回というふうに変えました。

ですから、今回キックオフシンポジウムというのは、まだ案はございませんけれども市民からご意見を頂戴する。案ができた段階で来年もう一回シンポジウムをさせていただくということで、事前のシンポジウムが1回から2回にふえたということですね。

それから、市政アンケート、紙のアンケートは前回しましたけれども、③のウェブアンケート、これは今回初めてでございます。

このウェブアンケートは結構機動性に富んだ形でアンケートをとりますので、特定のテーマについて集中的に聞くということですね。ある短期間にできるということがありますので、ウェブアンケートというのは、しかも市民だけじゃなくて、市外の、場合によっては県外の方々からもとれるというツールでございます。これが前回と違いましてふえました。

それから、これは呼び名が違うのかもしれませんが、今回はタウンミーティング、市長のタウンミーティングで来年度、ある程度の案ができた段階でタウンミーティングでご意見を頂戴できると。

前は市政懇談会というような形でもやっておったので、事実上一緒かもしれませんけ



れども、今回タウンミーティングという形でやらせてもらっております。

その他は団体との懇談会とか若者懇談会、パブリックコメントは前回もしておることですので、違いと言えば今申しましたようなところでございます。

#### ○ 谷口周司委員

この市民参画というところも非常に大事かなと思いますので。

市政アンケートは抽出された方ですけど、ウェブアンケートは誰でもいける。あとはタウンミーティングというところで細かくいきたい方はそこに行けば参画ができる。

これ、タウンミーティングですけれども、今のやり方、何かテーマを決めてシティ・ミーティングとかでやっていますが、今回も1年間を通してこの総合計画のみを各地区でやっていくという、これに特化したタウンミーティングになっていくという。

#### ○ 館政策推進部長

タウンミーティングにつきましては、来年のタウンミーティングで総合計画の案を持って市長に回ってもらおうと。ことしはシティプロモーションになっていきます。

それから、ウェブアンケートでございますけど、誰でもということではなくて、ウェブアンケートの調査会社に一応委託をしたりあるいは実施してもらいますので、そのアンケート会社が囲い込んでいるというか、配信できる相手方は無作為でございます。そういった形です。

それで、例えばdポイントクラブというものでありますね、そこへ配信をして、例えば属性を持っておられる、20代なら20代、30代というところに送ることができるんです。そこから、当然無作為は無作為なんですけど、誰でもがどこかホームページからアンケートをするという形じゃなくて、一応ターゲットを絞ってメール配信をしてアンケートをとろうと、そういう形になろうと。

#### ○ 谷口周司委員

済みません、私、ウェブアンケートはちょっとホームページで誰でもいけるかなというちょっと理解で済みません。そういうことですね。

わかりました。ちょっと市民参画というところがやっぱりどうしても気になるところでしたので、お聞かせいただきました。ありがとうございました。

## ○ 諸岡 党委員長

他にいかがでしょうか。

## ○ 川村幸康委員

総合計画というのは、予算案の規模でいくと日常の毎年、予算案は上がってきてやる2000ぐらいある政策とそれと総合計画でこういう特徴のあるものをこうやっていきたいという骨格になるやつを、いろんなものの見方があると思うんやけど、一つはみんなの意見を聞くとか、周知をしてようけの意見を尋ねてやるという仕組みをとるのは民主的というのと同時に無責任になってしまわへんかなという思いが私はあるんさ。

聞くのは悪くないよ。だけど、最終決定するのは行政であり、行政が持つておる基礎資料やいろんなことを考えて、こうあるべきやという責任は行政にあると思うんな。

ところが、やもすると市民代表や自治会の皆さんに聞いたとか学識経験の皆さんに聞いたという話の中で、あれもこれもになって四日市に合わんということも多々あるような気もするで、やっぱり最終的に議案として出してくるのは行政である。

やっぱり行政のほうもそういう意味でいくと議会で議論を闘わせて、しっかりもんでつくっていくということが必要なんさ。そうすると、そこで初めて行政の計画性で効率よくできるという話やろうと思うと、そもそもなんやけど、何で1年早く終わらすんやろうなという思いが俺はあるんさ。

だから、前も議論してきたけれども、そんなやったらまた今度でもまた終わるのやったら、意思の弱さと言うか、それならそれでそれをしっかりやれという話が必要なのに、どうも何で1年早く終わらせて、何で根拠もない2020年という、オリンピックが終わったで合わすんやみたいなのは俺はあかんと思うておる。

だから、タイムスケジュール的に言うと根本的にこれはきちっとあるべき姿でいくと決めた総合計画をきちっとやった後に、次のやつをやっていくということでないと民主的やないなと私は思うというところがまずある。

もう一個は、今までの総合計画の決め方がどうというのも、今までこんなことをやってきたというのをもとに議会との対応というのはわかるけど、すごく変わっておるで、もうちょっと考えなあかんのと違うかなと私は思っておる。

だから、この先生が何か言うておるやつ、なかなかええなと思うたのが、四日市の総合

計画をつくっていくのに、委員長のエ先生は物差しと申うておったかな。このスマートシユリンクというのは余りようわからんけど、市民の幸せの物差しを、捉え方をどう見るかというやつをやっぱりせんとかんと違ふかなと思ふんや。

極端なこと申うと、例えは前のテーマとして、人口減少で既存施設の有効活用と申うたやろう。結果的に例えは東橋北小学校の跡とか、三浜小学校の跡とか、あかんとは言わんけど、むりやり既存施設の有効活用を図った上に、そうしたら費用対効果はあったんかというところを見ると、どうも言葉がぐっと走って行って、何かしら有効活用、――使っておるで有効活用と申うけど――総合計画では効率って全然見てへんのやわな。

そういう、もうちょっと今までと違ふ物差しの考え方を持ってこんとさ。

例えは、私らが思っておるのは、今の図書館計画でも、図書館をつくってくれるのはええし、図書館があるのはええなと思ふよ。誰もがそうやって思ふことやけど、その図書館が本当に活用されて、例えは市民の人があそこへ行ったら楽しそうやなとか、よさそうやなというのは何かなくて、図書館をつくって本を置いてあるぞみたいな話になるとあかんのやさ。

一番市役所の苦手なところを、何かあるとそっちのところの部分の考え方とか、道筋がいつも総合計画の中で抜け落ちておったような気がするもんで、安全とか平等とかよりも、どっちかと言ふと、もうちょっとその物差しというのの中にわくわくするとか楽しいとか。

あんなのをすると四日市は魅力的やなとか、楽しいなというようなもの物差しがないと、何か今後10年ぐらゐのあれは余計にあかんのと違ふのかなと。

それから、もう一つは、その基礎ベースになるのがやっぱり人口目標やと思っておるの。だから、人口減少と言ふてみんなが言ふておるのをふやそうとか、減っていくんやでしゃあないと見るのか、人口増を図るんやったら四日市どうするんや。

前も小林さんが言ふておったみたいに東芝は呼んできて、人を呼んできたけど、人に住んでもらう施策もあればもっと住んでもらえたなと思ふと、やっぱりそれ、どうするのや。だからやっぱり人口減少やでと言ふて、一番目にも来ておる都市と環境が調和すると言ふて、既存市街地の有効活用だけ図ったもんで、私は四日市、10年遅れたと思ふておるのさ。

あのおきにもう少し安く供給できたならもっと四日市は、――それは農地、調整区域やっただかもわからんけど――人口増はあったやろうし、違ふたものの考え方があったと思ふておるで、そういうふうな視点の考え方と考えられる基礎ベースをもっとようけ出してきて

ほしいな。

こんなやり方をされると、俺らも資料倒れで読むだけの能力しかないで、もうちょっと、言いたいようなことわかるやろう。もうちょっとそういうものをつくれるような資料をやっぱり出してこないかんわ。

これはもう私、感覚で言うただけやけど、だからこの特別委員会も、そういう意味でいくとほかの委員もおるで、みんなが触らなあかんわけやけど、触れる中でおおよそのそういうラインをこの特別委員会で作ったら私はええのかと思うておるんで。

やっぱりあんたら一番天王山でえらいのは議会で議決をもらうこと。そのために一生懸命やっぱり知恵を働かせてある意味せないかんということやと思います。

以上です。

#### ○ 諸岡 党委員長

具体的な答弁というのは難しいかわかんけど、一言、コメントをいただければ。

#### ○ 館政策推進部長

今ご指摘の点はしっかり、きょうは本当に非常に資料が多くて、これまでの総合計画の振り返りもありましたので参考に見ていただければと思いますが、今後は議論の骨格あるいはテーマ、課題出しをさせていただきながら、あるときは土地利用について議論する、あるときは教育について議論するというようなめり張りのついたテーマを決めてご議論をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それから、冒頭、委員から、要するにその1年前の前倒しは賛成できんということでございましたけれども、今私どもとしましては来年の11月定例会に上程するべく頑張っていきたいという今思いでございますので、その点はぜひご理解を頂戴したいと思っております。

以上でございます。

#### ○ 川村幸康委員

議論するつもりはないけれども、そのところはしっかり何で1年前倒しするのやという説明がつくような説明責任は要と思うよ。

だから、森市長にかわったで、早く森さんの政策カラーをやりたいとか、そういうこと

なのか、それか、前の総合計画が達成できたでそれで必要ないのか、やっぱりそれは何となくという説明しかここには書いていないやんか。全然説明がないよ。

だからやっぱりそれはあかん。やっぱりきちっと、ここの最初にちょこっとある。そんな理由だけで、さっといくやん。このような状況を踏まえて、平成32年まで計画期間とする現況の総合計画の終了を待たず、情勢の変化が目まぐるしい近年のって、そんなんあかん。

やっぱりこういうこととこういう理由でこうなんですとか、こういうふうな必要性は何であるのやとなると、ほぼ答えられへんわ。

なぜかと言ったら、私らも議決した10年前に10年できちっと決めたんやで、やっぱりその重さというのはやっぱり要るよ。それを覆すだけの理由はないはずやぞ。そうでないところからも行政が言い出したら何でもありになるであかんというの。そこはやっぱりきちっと。

この委員会でも最初の入口のほうで総合計画、これ、何にもないんや。何で現行の総合計画の終了を待たずにやるのやというの。

今館さんが、私らもそう思っておるのでそうさせてもらいますという言い方やけど、それはあかん。やっぱりちゃんとすべきやないの。

## ○ 諸岡 党委員長

この委員会の立ち上げの際にはほぼ実施のめどがついたということで1年前倒しという説明が出ていますけれども、今川村委員のおっしゃったことももっともな部分があると思います。

次回までにきちんと書面で市民の皆さんに説明がつくような1年前倒しの明確な理由というものもきちんとお示しいただけるようにご準備をお願いします。

他に、いかがでしょうか。

どうぞ、関連。小林委員。

## ○ 小林博次委員

やっぱり1年前倒しというのはよくないと思うておるのやわ。

どうしてか、今まで行政が思いつきで計画でもないことを、例えば茶室をつくってみたり、そんなことばかり無駄金を使ってきたところに借金がかさんだ過去の歴史があるわけ

やね。そういう思いつきを防ぐというのが後ろにもはまったか前にもはまるとわけのわからん基本計画、やったかもわからんけど、やっぱり計画を決めたらきちっと成果と総括をやって、新しい年度からどうするのというそういうことで対応していかんと、なんか知らんが市長がかわったから、——市長がかわったから変わるのはええんやけど——そんな中途半端な議論は多分してきていないと思うんやわ。

それで今回、何でも市長選挙に的を合わせておるみたいな気がするんで、それが余計に気に入らん。

それから、議会が審査しているのに同じようなことでタウンミーティングをやっていく。これ、市長選挙やろう。総合計画はそんな軽いものと違うやろう。やっぱりもうちょっときちっと。議会でさまざまな委員さんから、もしくは市民の皆さんから来た意見があなた方で集約されたと思うが議会に届いて審査して、10年たってすばらしいまちになるなというような計画を見てもらって、その意見を集約して、それを理解してもらうためにタウンミーティングとか、そういうものが実施されるべきやというふうに思っているわけよ。

だから、最初にも言うたみたいに、策定委員会は議会が終わってから総合計画の最終報告を第6回をやるということやけど、最終報告は議会の前にやって議会に報告すべき材料なんやわな。もっと正確に言うたら、議会始まる前にここの部分をつくってきて提案してこんと、議論のしにくいところやと思うよ。

これ、今違った政策論議する場所と違うであれやけど、例えばそれは誰かの意見やであれやけど、例えば道路計画とかそんなことよりはというこんなことがあったけど、例えば車が多くなって県道でも実際に大型トラックがはみ出して走っておるわけよ。路肩に穴ぼこがあいたり、自転車を通ったり。高齢化して歩道もないような道路でお年寄りが現実に困っているわけよ。それで転倒して病院へ行ったりという管理責任を問われるやつがいっぱいあるわけやわな。

だから、そんなことなんかもやっぱり残っているなら残っているでどれくらいの計画を立ててどれくらいまでに処理する、こんなことも含めた提案が出てこんと正確な方向性を示すことにはなりにくい。たかが道路というけれども、時代が激変していくわけで、10年前に言うておった高齢化の年齢と今と10年後の年齢では全然違うわけや。

今までは乳母車押していけたけど、イメージとしては、全体として、杖をついてもあかんぐらいのことになるわけやない。

だから、そうすると同じ道路問題とか言っても、もう少しきめの細かい総括と、それか

ら、あと積み残し、何があるのかというのを議会に示してもらって、議論を深めて政策にするということが俺は必要やと思っておるんやわ。そういうことね。

## ○ 館政策推進部長

本日、全てご説明できませんでしたが、これまでの総合計画のそれぞれの分野でそれぞれの事業がどの程度までできて、どの程度できていないかということの表、600ページ弱余りになるこの資料をご報告の中身でございます。

恐らく委員はこの中身を、1個1個をもう少しきちっとということでございますので、今後テーマの中で議論していくときにそのような、この点についてこの特別委員会の中で議論を行うというようなことをご提示いただければそれについての議論をこの場でさせていただくということができますので、ぜひその辺は一緒にご議論をいただきたいと思っております。

それから、何度も申しますけれども、総合計画は議決をもって策定でございます。あくまでその策定委員会への報告でございますので、議決をもって総合計画ということでございます。

そこは私どもの資料の作り方がおかしかったかもしれませんが、一応議決をもってでございますので、そこはご容赦いただきたいと思っております。あくまでその後の策定委員会は、その内容を報告するというものだけでございます。

いろいろご意見を頂戴いたしましたけれども、まだ、きょうは具体の材料を持ってきておりませんので、今後テーマ別に、あるいは課題別に言葉でこの場でご議論をいただいて、それをフィードバックしていく。

それから、先ほどの市長のタウンミーティングの件でございますけれども、これも素案をタウンミーティングの中で示して、それでその場の参加された市民からも意見を頂戴する。その意見を頂戴したものをまた案に反映していくと、そのときにはこの特別委員会とキャッチボールしながら案を策定していくという心構えでございますので、ぜひご理解いただきたいと思っております。

## ○ 小林博次委員

つまり、タウンミーティングやって何か出てきて案がまとまると、その都度議会に出てくるわけか。

## ○ 館政策推進部長

ある一定、タウンミーティングだけではございませんがいろいろな市民懇談会であるとか、アンケートであるとか、その他いろいろもろもろの市民から聴取した意見をもとに案をつくりながら、その途中段階で特別委員会のほうにお諮りをしてご意見を頂戴すると、そのやりとりですね。

前回の策定委員会的时候にも2年間で27回、特別委員会を開催していただきました。

そういうキャッチボールをしながら、特に私のイメージでは今年度というより来年度の特別委員会では非常に細かい形でキャッチボールをさせていただきながら内容を詰めていくというふうに思っておりますので、ぜひその節はよろしくお願ひしたいと思っております。

## ○ 小林博次委員

前日も特別委員会に入れてもらって議論させてもらったけど、どこかで聞いてきてまた案が出てきて、それが出てくるってそんな感じは全然なかったと思っておる。議会だけで議論して、もちろんそれをまたみんなのさまざまな意見があるし、総括もあるし、それに基づいて新しいまちづくりをどうするのという問題提起があって議論した。

今回のこれやと同時並行して同じことをやって、それでその都度こっち向いて意見が来るとなるといかなもんかいなど。

## ○ 諸岡 覚委員長

前回よりもある意味では市民意見をより取り込める体制をつくりたいと、行政としてはそういうスタンスなわけですか。

今一つ小林委員がおっしゃったように前回はそんなことはなかったというご指摘けれども、その違いは何なのかということをおちょっと、スタンスのご説明をいただければ。

## ○ 館政策推進部長

私のイメージでは前日も27回もやる中で、当然その都度その都度、いろいろな各種団体とかアンケートとかで市民意見を把握しながらその内容でもって我々が案をつくって、その案をお示ししながら議論をしてきたという認識でございますけれども、今回はさらにその



シーンから意見を頂戴するチャンネルはさらにふやして、その上で案をつかって、こちらの場で議論をしていただく。

市民からこういう意見でした、アンケートではこういう意見がありました、それを受けて我々としてはこういう案をつくりました、それをお示しして議論していただきたい。

そこがいやそうじゃないと、ここの中でのいろんな修正もありましたし、相当特別委員会の中で文言の修正もやりましたし、最終の4日間の集中審議でございましたけれども、議会の中の、11月定例会議会の当時もそうでしたが、4日間全員での集中審議の中でも文言の修正などもたしかあったと思います。

そういった最後の最後まで議論しながらやってきたとっておりますので、そのスタンスは変えずにきちんと、要するに我々がつくったものをそのまま認めてくださいというそういうスタンスではございません。

何回もやりとりをさせていただかないと冒頭申しましたように実効性、実現性のある計画ができないというふうに思っておりますので、ぜひその辺については、——皆さん方のお時間をとらせませうけれども——ぜひ一緒になってご議論いただきたいという思いでございます。

## ○ 小林博次委員

議論は一生懸命するんやけど、普通は先に市民意見とかをまとめてあなた方が聞いて、それができてから審査させてというのが普通のやり方やと思うんやわな。だから、何か同時並行し、その策定委員会があつたり、市民の皆さんにもというやり方というのはちょっとなじまんと思っておるのやけど。

これは個人的な意見やから。委員長、意見を集約してもらわんでええのやけど。

それと1年前倒しというけど、前の計画、大矢知興譲小学校問題も残っておるわけや。だから、厄介な問題だけ次に振らんと、やっぱりきちっとやらんと。これはあかんなどいうのは個人的に心の中で思っている。きょう以降の委員会でこんなこと言えやんから、きょうしかもうないんで発言させてもらったけど。

だから、やっぱりきちっと折り目切り目つけて、計画年度内にある問題を処理する、こういう姿勢は要るのと違うかなと、これは要望で、終わり。

## ○ 諸岡 覚委員長

特段の答弁、よろしいですか。

ちょっと皆さんにお聞きしますが、ご質疑、この後まだございます方、どれぐらいいらっしゃいますでしょうか。

ちょっと休憩1回入れさせていただきます。

(発言する者あり)

○ 諸岡 覚委員長

じゃあ、三平委員。

○ 三平一良委員

僕は1年前倒しということですがけれども、現総合計画の真逆の施策を打っているから、早く変えたいなというところがあるんじゃないかなというふうに思っています。

検証を見ている、未達成の部分のほうが多いわけです。

その前の重点的施策についてはおおむね成果が見られましたとあるけれども、その指標・数値目標でいうところでは未達成のところが多いわけですよ。だから、このところをもう少し検証する必要があるんじゃないかと思うんですけど、その辺については。

○ 館政策推進部長

実は成果のほうの未達成が非常に多いのは推進計画ごとに指標を見直しておりまして、ある指標が第1次推進計画で達成をしますと、第2次推進計画の段階ではさらにその目標値を上げて、次なる目標にしてきております。したがって、第3次推進計画がまだ始まって1年目、2年目ということだものですから、このあたりの達成が非常に少ないというところがございます。

おっしゃるとおりでございますので、成果指標と先ほど冒頭、豊田委員がおっしゃられたように事業をやったということと成果がどう上がったかということが両方で検証していかなくちゃいけないと思っておりますので、そういったところをきちんと見ながら、とはいえ事業のほうが進んでいるのに成果ができていないということは事業を変えていかないといけないわけですので、そういった視点も考えながら次期総合計画の策定に取り組みたいいけないなど、そういうふうに思っております。

○ 三平一良委員

ですから、その十分な検証が次の計画につながるというふうに思いますので、その辺し  
っかりやっていただきたいと思います。

○ 諸岡 党委員長

よろしいですか。

他に、よろしいですか。

○ 日置記平委員

意見だけ。策定委員のメンバー表を見てみると、ここには農業関係のメンバーが入って  
いないけど、いたほうがいいんじゃないかな。

工業、商業、文化、その他は入っているんだけど、例えばJ Aとかいろんな農業という  
産業分野。

○ 諸岡 党委員長

いかがですか。

○ 伊藤政策推進課長

済みません、農業関係の方としましては、この17分の9ページの一覧表でございますけ  
れども、19番の山原さんという方はさくらベリーズガーデン園長と記載されてい  
ますけれども、農業の関係に携わっている委員でございます。

○ 日置記平委員

何をつくっておるの。

○ 館政策推進部長

この方はブルーベリーをつくられておりまして、そのブルーベリーを栽培して、それを  
自分のところの前で売ったり、ジャムにしたり、いわゆる6次産業と申しますか、そう  
いったことを実践されている新しい方でございます、そういった観点でご意見を頂戴しよ

うと思っております。

○ 日置記平委員

もうちょっと幅広くJAというのものもあるね。

○ 諸岡 党委員長

他に、いかがでしょうか。

ちよっともう一度皆さんにお聞きしますが、ご質問もある方、もう一度ちよっと……。

(発言する者あり)

○ 諸岡 党委員長

いや、質問があるなら1回休憩を入れて、まだ継続はしていくつもりなんです。ご質問ある方、あとどれぐらいいらっしゃいますか。別に時間制限はないんで、何人でも結構なんです。

ちよっとそろそろ1時間経過したんで、休憩を入れようかなと思ひまして。なければそのまま継続するし。

そうしたら1回休憩を入れます。午後3時再開。

14 : 44 休憩

---

15 : 00 再開

○ 諸岡 党委員長

それでは、再開します。

質疑を続けてまいります。

川村委員、どうぞ。

○ 川村幸康委員

前回のやつを基準にしてやろうという考え方も楽やでわからんでもないけど。

やっぱり使い方としていくと異論、反論は行政が承るという話はよくわかるんやけど、特にこの特別委員会の今後の方向性もそうなんやけど、特別委員会で異論、反論があったけどこういうふうにとまとまってきたで、それで成案やという話でないと私は思うておるし。

それから、特に最近行政が多いのは、ここで言うと幾つかの会議体を持つよね。シンポジウムやら策定委員会やら若手職員の分野別の検討会といろんなのを持つよね。それで連合自治会とか諸団体からも多分聞くんやろうと思うけれども、それを聞いてきたでといえども行政責任なんやで、行政が最終的に出すという話でいくと、この特別委員会でも、私ら以外の議員もたくさんおるわけやで、私ら一部なわけやで。その中で、特別委員会で意思決定して決まりという話ではないという捉え方で、特別委員会の方向性があったほうが私はええと思ってる。委員長がどう考えておるかとは別にしとね。

そうでないとこのメンバーだけでは漏れる知恵もあるかもわからんで、それは総じて大きく拾っていくということになると、行政も最終的に対峙して議決をもらうという話の中でいくと特別委員会を含めた議会に対してどう、合意形成を求めていくかということにやっていくべきかなと思うんで、私案やけど、本来やったら、例えば議会には常任委員会があって、そこでやっておるところの精通した分野のところやと産業生活常任委員会なら産業生活常任委員会やし、都市・環境常任委員会なら都市・環境常任委員会やし、総務常任委員会なら総務常任委員会のところの守備範囲の中でやるというのも一つの手かなというふうには思っています。

これがありようとしてのまず意見と。きょうしか言えやんよ、こんなもの。

それと、もう一個は、中身でいうと例えば住宅施策でも、背景は人口増からきて、住宅サービスをするのか、それで四日市に定住者をふやすのかということとか、いろんな議論が、今回のこの内容を見ておると高どまりやで石塚も反対があつて、小鹿ヶ丘も反対があつたでやらんみたいな方向性やろう、これ。この内容を見ておると。

そうすると一体、役所としては前の総合計画は一体何やったんやと思うと。物の見方を変えりゃ対応力があると言えばあるでええんやけど。

それから、北勢バイパスなんか、議会にも何も示されてへんけれども、あれで終わりやで。旧の湯の山街道まで行かへんのやで。もう20年、30年は国道477号の今のバイパスで終わりやで。

そういう設計にしてしもうたんで、俺ら後で気づいてんで、地元の自治会が承諾したとやうて、俺が言ったときは遅かったんや。

そんな、地元をもう一遍ひっくり返しに行くというのはできへんで、一遍議会に知恵借りやないかんと思うておるけど、議会としてどうするかという、四日市市もそれを聞いておんのかどうなのかな。

というのは、これも大きなことやでな。だからこれ、北勢バイパスで都市と環境が調和するまちも川島から向こうを向いていくのも私らが生きておる間はあらへんわ。

そんな状況やのに、議会に説明が何にもないんや。そんな大きな政策で総合計画にうたっておったりするやつが、変えられておっても何ら説明もないし、報告もないというのは問題やなと思って。一遍北勢バイパス確認して。三重平中学校からおりてきて、国道477号の上も、あれも何で俺、山になったんかなと思っておったんや。私のところへ家へ帰るときにマスターズプランのところが山になっておるんや。そうしたらどうも丁字路で平面タッチやというんや。それで、行く行くは……。

## ○ 諸岡 党委員長

川村委員、済みません、その辺の個別案件は今後その総合計画の具体案が出てきたときにまた議論していただくということで、きょうはちょっと、個別案件は控えていただきたい。

## ○ 川村幸康委員

でも、だけど総合計画で、前倒しでもし1年早くやっていくということがあるなら、今後にも大きく影響しそうなようなことでも、そんな大事なことは全然置き去りなわけや。

それは少し行政としての責任はあるはずなんやでな。大矢知地区の学校問題とか、そういうのは絶対行政責任があるわけやで、今現実に学校に通っていくし、これからも通う子供たちは相当に影響することなんやで、そのことも解決せずして1年前倒しでというのは、行政責任の放棄やわ。だから俺はあかんと言う。

そういったことがきちっとできておるんならええよ。だけどそういうこともできてへんのに、次の段階の総合計画に移るというのは、やっぱりこれはあかんや。

そうすると、そもそも論として市議会として特別委員会も、立ち上げたんも一年早かったかなという思いもあるのよ。

もう一個言うと、――前回のやつを例えにするなと言ったけど――前回の例えでいくと、この特別委員会ができたときには、たたき台があったんやわ。今回ないもんね、これ。

だから、そういうので言うと特別委員会、早いんやわな。前回と全然違うて。前回はたたき台としての総合計画案があって、特別委員会に出したで。俺は特別委員会をつくるときも1年早いのと違うの、できてきておるのとは言った、行政は多分これの対応は後手後手に回っておるので、できてへんで。だから、実質特別委員会がきちっと機能できるのかなと思ってさ。そうやって思うんやけど。

#### ○ 諸岡 党委員長

何かコメントがあれば。

#### ○ 館政策推進部長

済みません、個別の市営住宅とか北勢バイパスの案件は、先ほど委員長もおっしゃっていただいたようにその場面になりましたら、また、ご意見を頂戴したいと思います。

私も前回にこだわることはありませんけれども、前回も第1回目の特別委員会、やはり10月5日に策定していただいております、そのときにはまだ案までは当然いってなくて、資料とかデータ整理したものとかということでございました。

ただ、2回目以降の特別委員会からはある分野の論点とか、そういうものを今回提出しておりますので、今回も2回目以降、――実質で3回目以降になりますが――では論点であるとか資料であるとかをお出しして、十分その計画の中身についてご議論いただけるような体制にもっていきたいと思っておりますので、ぜひご理解いただきたいと思っております。

あと、この特別委員会のあり様については、私どもがコメントすることではございませんので、これはまた皆様方とのご議論にお任せします。

#### ○ 諸岡 党委員長

先ほど来からそもそも論としてこの委員会の立ち上げが早かったんじゃないか、あるいはそもそも1年前倒しということ自体が間違っているんじゃないかというご意見がいろいろな方から出ております。

その上でちょっと委員長として一言、自分自身の考え方を申し上げたいんですけれども、1年前倒しが早いか遅いか、よかったか悪かったかというのについてはさまざまな意見はあるかと思いますが、その上で行政側から議会に対してこうしたいので委員会を立ち上げてほしいという打診があり、本会議において全会一致で委員会を設置するということが

決まっておりますので、その議論についてはいろんな思いはあろうかと思いますが、でも肅々とこの委員会は進めていきたいと思っておりますので、どうか皆様のご協力、ご理解をいただきたいというふうに思います。

先ほどから出ております意見に対して、ちょっと委員長としての一言の見解を示させていただきます。

続けて質疑、行きます。

ご質疑ある方、いかがでしょうか。

### ○ 川村幸康委員

結局、議決したという話でいくと、総合計画調査特別委員会を立ち上げたというのは別に早い遅いという時期の問題は抜くと。

だけどやっぱり中身の問題もあるで、それはやっぱりこの調査特別委員会の中できちっと、我々委員の中で議論する中でどういう方向性が一番よくて、あと、ほかの議員の意見集約を含めてやれるかというやり方の方向性だけは、私はやるべきかなというふうに思っております。

### ○ 諸岡 党委員長

それは当然そうです。

### ○ 川村幸康委員

それと、今ここでしか議論できやんこととていくと、1年前倒しの理由づけを今度出してくると言ったけど、俺はやっぱりそれは本当はないと思うておんのさ。行政否定やで。そもそもでいくと10年間私らこれ、議決して、基本構想、基本計画をやったという話でいくと、10年の期間というのはそういったこととていくとあるわけやで、それをほごにして1年早く終わるといふといふのは、それは逆に我々も考えやなあかんところなんさ。

行政側が言われたと、そんなんやったら議会の議論って要らんもんね。行政は行政で政策、立案、提案、行政権って持つておるわけやで、そうしたら議会はそっちのほうが強いとていってそれに引きずられるのかという話やで。何でも反対ではないけれども、基本的に解決したのなら何もすることはありませんで1年早く終わりますわならええけど、幾つかやっぱりあるんやで、それは何もしてないのに、早く終わるといふのは、やっぱりこ



れは説明がつかんやろ。私らにもつかんし、市民にもつかんと思うわ。

だからこれはやっぱり総合計画のあり方として、そもそも原点がぶれるでな。そんなやったら、簡単に自分らで言うたことを自分らで覆すんやで。それはあかんやろう、やっぱり。

これは委員会なんか、議会としてやっぱり言うべきかなと私は思うておるけど。  
以上です。

○ 諸岡 党委員長

他に、ございますでしょうか、質疑。

○ 豊田祥司委員

総合計画の策定委員についてなんですけれども、前回の資料を見ても公募委員という形で2名入られていて、今回はそういう表記がないんですけれども、この公募委員について今回取り入れなかったのか、取り入れてこういう形なのか、ちょっとその辺の経緯と評価とその辺をお聞きしたいと思います。

○ 館政策推進部長

今回はあえて公募委員というのを入れておりません。

今回は多くの市民から意見を聞くということが重要なことだということで、その点、市民意見を聞くチャンネルをふやす一方で策定委員会の委員には今回は公募していないと、そういう状況でございます。

○ 諸岡 党委員長

よろしいですか。

他に。

○ 日置記平委員

また委員のメンバー構成のことで、ちょっと。

余り広くなっても困るけど、でも、抜けた産業があってもあかんというふうな気がしたんだけど、これ、本当にこのメンバーでええのかなというところもあるけど、それは別

にして。

例えば、今インフラの話が出たんだけど、そうすると例えばトラック協会とか、それから、建設協会とか、あるいは商工会議所のそういう専門部会。もう一つは、大学。いろいろ出ているけど四日市大学は入っていない。学生は入っているけど、大学の先生というのは入っていないのかなとか。

それから、もう一つは組織では非常に三重県でも大きな組織の中に中小企業団体中央会というのがあるけど、この役員の方は四日市に存在するし、医療の関係はどうなんやろうなというようなことを思いました。

だから、すぐれた人たちが集約された組織ならと言っておる。でも、そのすぐれたとは相互組織の中で総合知識を持った産業のそれぞれの委員さんはどんな人かということになるんだろうけど。もうちょっと中身をチェックしてもらったほうがよさそうに思うので、検討してください。

今僕がちょっとざっと言ったけど。

## ○ 館政策推進部長

今いろいろとご意見を頂戴しました。

策定委員会としては今これで構成をしておりますので、これでいかせていただきたいと思っておりますが、今抜けておるようなところにつきましては、そういった団体に赴いて行って意見を頂戴するような場を設けていきたいと思っております。

例えば商工会議所の部会というようなことであれば、部会のほうに行って見ていく。実は文化団体代表の荒木委員からは当然文化協会理事長として出てきていただいているんですが、やっぱりご自身としても自分だけの意見じゃなくて、その他の文化団体の意見もぜひ聞いてほしいといったようなこともおっしゃっておりましたので。

ですから策定委員会はいくまで意見を聞く場です。それでそこで決める場所ではございません。決めるのは何度も申しますように議会の議決というところです。

それから、市民意見につきましても、策定委員会だけの意見だけではなくて、いろんな団体のところに、この委員からご紹介いただくようなこともしながら、意見を聞くようなことをしながら、主要なところのご意見を頂戴していきたいなと思っております。

## ○ 日置記平委員

はい。よろしく。

○ 諸岡 党委員長

他に、いかがでしょうか。

よろしいですか。

(なし)

○ 諸岡 党委員長

では、質疑なしと認めて、本件についての質疑を終結いたします。

ここから事項書の2番目に移って行くんですが、理事者の方、ちょっと今後の進め方のところでアドバイスいただきたいので前列4人の方、もうしばらく残っていただけますか。それ以外の方、ご退席ください。

それでは、事項書に基づいて2番目に進めていきます。

今後の委員会の進め方について、皆さんにちょっとご協議をお願いしたいんですけれども、きょうご説明いただきましたように、今後、策定委員会が第2回、3回、4回、5回と続いていきます。

次回の会議日程につきましては、一番下の3、その他のところに書いてありますように12月20日を予定しております。この日程についてはスケジュールに、12月18日の第2回策定委員会が終わったことで、それを受けての第2回のこの特別委員会ということになるんですが、その上で今後の進め方。今後と言いましてもこの委員会のこのメンバーは3月末までですので、4月以降についてはまたメンバーもかわるであろうし、正副委員長もかわると思いますので、今から話すのはあくまでも3月末までの話です。

その上で今後、どのぐらいのペースでどんなことをしていくかということをお諮りをしていきたいんですが、まず、理事者のほうにお聞きしたいんですが、第2回が12月18日に開かれて、その後、第3回が3月半ばから下旬に開催をされますよね。

この12月18日から3月の間において、行政サイドとしては進捗というのはどんな感じで進んでいくんでしょうか。それに応じて来年の1月以降のこの特別委員会の開催を考えていかなければいけないんですが、ざっくりとしたところで教えていただくことはできますか。

## ○ 伊藤政策推進課長

済みません、資料のほう、A3の、お手元に策定スケジュールというものがございます。今委員長のほうからその策定委員会のほうの開催のほうを示していただきましたけれども、まず、第2回が12月18日ということで、この12月20日の特別委員会の前ということで、ここは第一次素案に向けた協議、意見交換をしていくということで、この後に、その3月の策定委員会に向けて第一次案ということで総合計画の概要というか形をかたどっていくようなまとめをしていくと。

1月、2月、3月の段階でそれぞれの分野別検討会議の状況を踏まえ、少しずつブラッシュアップしていくというふうな形を考えておきまして、特別委員会のほうにはその時その時の最新版というのをお示ししながらいくような形にはなるかと思えます。

## ○ 諸岡 党委員長

そうすると分野別で1、2、3でつくっていったそれが全部まとめられて、3月半ばから後半に第一次素案ができるということですね。

その上で皆さんどうでしょうか、今後の委員会の進め方、どのタイミングにどんな委員会を開いていったって、何を話し合っていくかというのを、皆さんの意見ありましたら。

## ○ 川村幸康委員

さっきの議論になった例えば道なり、住宅施策なり、それぞれの個別具体的なやつありますよね。ただ、その前までの背景もわかっておいて、次の目標でこれぐらいでいけるこうやってやっていくというのは、行政からやっぱり出してきてもらわないと議論のしようがないというか、議会の仕組みからいくと私らが勝手につくるというわけもいかんわけやで。

そうすると、北勢バイパスでこうやってやった、それでこういう施策をしていきますという今も載ってあるやつわな。それが今、今度変更になる、やったらどうなっていくのか、10年間でこれぐらいのことをやっていくのか、それとも行政としてはあくまで北勢バイパスはきちっと完成させてもらうようにやるという方向性でくるのかというのを、意思決定をしていくということになるとものすごい時間がかかるやろう。

そんなことが出てこん限り、例えば住宅施策も見極めるは書いてあるけれども。一応、小鹿ヶ丘と石塚でどっちも建てる案が委員会で示されたけど結局、決着がつかずに、全体

を見ると市営住宅の中に入ってくる人も余りが出てきたでという話になるとどうなんやと、今とまっておるわけやろう。

それならそういったもんが総合計画の中できちっと出してくれるのかというの、だから俺はもう一年ぐらいかけたほうがええと思うておるわけや。準備不足は否めやんもんでな。

だから、そういう意味からいくと、さっき藤田委員も言われておったみたいに、ほとんど今までの総合計画の検証をしてみると、残りやなんかがあるんやったら、その背景、向こう10年間でこの施策をどうやってやっていくんやというようなことは、今から1年ぐらいかけてあんたら市内協議せんと出てこんと思うておんのな。

それを慌てて次やったらええ仕事できやんと思うておるもんで、だからこれ1年早いんさ。だから俺、言うんやないけれども、何らかの形であなたらに仕事として1年早くせよという指示が来たと思うの。その分だけばたばたしておると思うておるの。

そうでなかったら俺はそういったことも含めて今しっかり出てきておると思うわ。

今、帳尻合わせで出してきてええものできへんで、やっぱりプロの仕事をしようと思うと少々は時間をかけてもええで丁寧にやらんと、今度の総合計画はそうやってやってほしいんさ。それをこれ、やっつけ仕事でしたらやっぱりあかんというのに。

これはマイク入っておるであれやけれども、各部で聞くと、思うておったより1年早いもんでみんなが参ったしておるぜ。おまえら、これ、1年前倒しでええのかと言ったらさ、追いつきませんわなと今はっきり言うておるもん。

だからそこはやっぱり聞こえてきておる声やで、やっぱりそれをきちっとしてやらんと、それでまた逆に言うと議会もおかしいわ。そんなら決算なんか要らんわ。検証も何もないわ。10年って大事やでさ。方向が。何もせえへんやもん。

だから、都市計画課やらほかのところを聞いても1年早まったもんで何も出せやんと言うんで。それはやっぱり館さん、現場を預かる責任者としてあんたら言いにくいやろうで、上から言われてやれと言われておるだけやで、だから俺が言うだけの話で。

## ○ 館政策推進部長

今ご心配いただきましたけれども、本当にこういうふうに関の総合計画の総括もきちんと各部局で行ってきております。

今どんな状況でそれぞれの事業がどこまで進んでいるのかというのは、まず前提の中で議論をしていきますので、もちろん大変な部分がありますけれども、一生懸命これ、やっ

ていきます。

何とか今の目標としては来年の12月に何とか議決賜りますように頑張っていきますので、ぜひそれはおつき合いいただければなという思いでございます。

どこまでの資料、あるいは案を出していけるか、これからまさに今の議論もやっておりますけれども、今後の議論にも係ってまいりますので、きょういろいろご心配いただいたところをさらに各分野別会議のほうにおろしまして、分野別会議のほうの議論も加速をさせて論点を絞ってということしていきたいと思っているんですが、やっぱり大きな課題、それぞれの分野でどれが今課題なのか、そちらをこちらにお示ししてその課題解決についてはどんな方法があるのかというのを我々の案を示してご議論をいただきたいと思っておりますので、それが今年度はきれいな冊子にはまだならんと思います。ですけど、分野ごとに議論している途中の中身をお示しできると思っておりますので、ぜひそういうところでおつき合いいただけないかなと。

来年度になりましたらそれらを踏まえて1次素案、2次素案というような形で冊子にしていく作業は来年度にはなると思っておりますけれども、今年度は分野別ごとに各分野で何が今大きな課題になっておるか、それをこういうお示しをして、ご議論を賜りたいと思っておりますので、そういったイメージです。

## ○ 川村幸康委員

それぞれがそれぞれ部署で一生懸命仕事をしてもらうのはええんやけど、例えば私が言っておるのは今回の総合計画の背景、10年なら10年間の背景のどうやったんやというのがまず出てくる、それぐらいは出てくると思うんやな。

そうすると、次の目的の期間でこれは5年でやるのか、10年でやるのか、3年でやるのかという期間設定が目的に合わせて出てくるわな。それがまた効率がええのかどうなのかというようなことの意味決定を行政案でもんでくるのに難しい課題というのは、そうなかなか出るもんじゃないなと思うておるのや。

だから、住宅施策にしろ、人口施策にしろ、今の言う道路施策にしろ、幾つかの難儀しておる難しい案件というのはもうちょっと時間をかけて考えやんと、そんな総合計画を1年早く前倒しでつくらないかんようになったでと行って、やっつけ仕事でしてくると余計に効率も悪いし、強いて挙げると市民の税金を使うんやで。無駄になったらあかんということやさ。

だから、そういうことやろう。だから、俺は今後の多分説明会があつて議論するんやろうけど、さっきも休憩時間に小林さんと言うた体育館、あの大規模な体育館をつくってしもうたから、これからは身近な体育館にはならへんわけやろ。総合計画の中でもどううたうかやさ。そんなので議会と議論しながらしかうたえへんで。極端なことを言うたら。

あんなんを呼んでくるということは、それこそ何か、年間何回かはプロか何か呼んでこんとコストが——儲けようとは言わんけれども——合わんようになるんや。そうすると、極端なことを言うたら総合計画の中でも今度の新体育館ができたら、今まで使っておった既存の利用者をどうするのとか。よそでは大体使用料やら七、八割高くなっておるのやわな。

だから、それはもうまけたれさと議員感情で言うことも簡単やけど、採算とれやんだらやっぱり回り回って市民にそのお金は払わすわけやで。

だから、やっぱり初めからかじを切ったのはプロスポーツで見るような体育館にしたわけやで、そうすると、市民が日常に使う体育館はどこへどうやってするのやとか、そんなの総合計画でもしうたおうとすると、例えば時間ありませんやんか、そんなことの決め方も。

今後の自校式の調理法の話だって、総合計画に載せてどういうふうにそうしたら学校給食にしていくんやとか、総合計画に載せやならんわけやけど、今やと準備が……。

## ○ 樋口博己副委員長

できれば具体的な案件をどういう方向性を持って進めていくかというのが総合計画とされていますので、具体的にその事業を進めるかどうのこののじゃなくて、例えば道路を整備する目的はどういうまちづくりをするのかということから総合計画の第一次素案とされていますので、できれば具体的な事業、議論というよりはそういう大きな方向性の議論をしていったほうがいいのかなど思っているんですが。

## ○ 諸岡 党委員長

今の副委員長の議事進行に対する見解を。

## ○ 川村幸康委員

そういうものの考え方もあるけど、なら基本構想と基本計画はそういうものの考え方で

ずっと来ておるんやで、そんなに変わらへんのやさ。

要は推進計画の部分やわさ。

今回でも推進計画、ずっと大体来ておったやつが、一つは推進計画を1年早く終わるといいう話が来ておるもんで個別具体やけど俺は言うだけでな。それもやってもおらへんやろうという、学校で大矢知、できてへんやんかと言うんやんか。それやのに1年早く終わらせてくれというのはいかんという話をしておるわけやで。

それは議会でも了承されたことではないと俺は思うておるで。

## ○ 諸岡 覚委員長

いいですか。ちょっと済みません。

先ほどから川村委員初め何人かの方から、——さっきも言いましたように——そもそも早いんじゃないかというご意見が出ています。まだまだ課題も多く残っているはずだと。それがクリアできていないのに1年前倒しはおかしいんじゃないかというご意見が出ています。

それは個別の各論で言うと確かにそのとおりの部分もあろうかと思うんですが、議会の本会議において全会一致で立ち上げてこの議論をしていくという方向性を決めた、これには今皆さん全員が賛同して本会議で全会一致で決まっているわけです。

その上でこの委員会が立ち上がっているわけですから、その議論については個別の案件として今後の総合計画の議論の中で個別案件としてのご意見はいいんだけど、委員会の進行を進めていく方向性の流れの中ではそもそも必要ないんじゃないかという議論はちょっと差し控えていただければありがたいなと思うんですが、いかがですか。

## ○ 川村幸康委員

必要がないということではなくて、私が言っておるのは総合計画。そうすると、諸岡さんが言われるようになると、私らが今後も議決して決めていく10年間も基本計画って何なん、要るのという話になるでな。

こんなもう行政が勝手に終わるといいうのが終わられるんやで、そもそもそういうことだと総合計画自体が要るのかという話になるもんで言うだけの話やで。

全会一致であったで反対したらあかんという話と違うてこれは考え方やで。だから、そもそも総合計画を前もつくったよな、今度もこうやっておおよそ10年間をつくっていくわ



けやろう。けれども、今回行政がやっておることを見ると、飽きたでか、ちょっと変えやなあかんでと言うて1年前倒しで終わらせてくれという話やろう、そこに具体的な説得力がある説明はないわけや。

例えば一番説明の説得力のあるのは、いやいや総合計画は全会一致で議決をもらったけど、それでおおよそそのまちづくりや目的は終わったんやと。そうやで次の課題としてこれでやっていくんやという話ならそうやなという話は一応わかりやすいけどな。そんな根拠なくて1年前倒しで終わるで、次をつくらせてくれという総合計画やったら、そもそも今回もまたそんな総合計画をつくるんやったら、初めから要らんやないかと俺は思うんやわな。ある程度総合計画というのは市の骨格をつくるような計画なんやで。前回はそうやったはずなんやでな。

○ 諸岡 党委員長

ただ、いいですか。

その議論は本来、本会議の前の討論や質疑で行うべき議論であって、本会議で川村さん自身も立ち上げに賛成したわけですから、その議論はちょっと1回置いておいていただかんと……。

○ 川村幸康委員

いやいや、特別委員会の立ち上げは何も否定はしていないわさ。ただ、行政から1年前倒しで終わらせてくれという具体的な説明を議会としては1回も聞いていないよ。

○ 諸岡 党委員長

いや、それはあります。

○ 川村幸康委員

1年前倒しで何かで終わらせてくれという具体的な説明は何も受けていないよ。ただ、言うておるだけで。一遍も何の説明も出ていないよ。

○ 諸岡 党委員長

その説明があった上で、だから特別委員会を立ち上げてもらえませんかという依頼が議

会に対してあったというふうに認識しておりますし、本会議でもそのような説明はあったというふうに認識しておりますが。

○ 川村幸康委員

私はそうは思うていないな。

きちっと具体的な説明はあったか。

○ 館政策推進部長

具体的な説明かどうかは、まず、2月の今年度の当初予算のときにこの予算を認めていただいたときに前倒しをさせていただくという前提の中での今年度の予算を認めていただいております。それがまず1点。

それから、特別委員会の立ち上げをさせていただくときに代表者会議ですかね、そこへ多分たしか副市長がいて、こういった趣旨で特別委員会を立ち上げさせていただきたいということを説明させていただいて、持ち帰っていただいたりして議論いただいて結果的に立ち上げていただけたというところやったと思うんですけど。

あとは市長の所信表明のあたりでそういった1年前倒しでつくっていきたいということをお述べさせていただいておると。

そういったところだと思います。

○ 諸岡 党委員長

少なくとも適切な手順を踏んで1年前倒しで総合計画をつくっていくので委員会を立ち上げていくという流れはきちんとできておりますので、最終的にこの特別委員会で審査をして来年の12月の本会議で総合計画が否決になる、ならんと、これはまた別問題なんだけれども、議論はしていくという方向性は確認はされておりますので、何とかその部分はお含みおきいただきたいと思います。

○ 川村幸康委員

流れはそうやって決まっておるでという話ではないと、俺は思うておる。

というのは何でかという、基本的に今回でも総合計画の調査特別委員会やもんで、総合計画の今回の調査特別委員会から今のある総合計画のまずは調査、検証とあるいはでき

ると思うておるわけや。これが特別委員会に入ってきた……。

○ 諸岡 党委員長

それは次回ちゃんと宿題でまた提出していただきます。

○ 川村幸康委員

その議論があつて初めて、そうしたらやっぱりそれは1年前倒しはおかしいと違うのというのは、調査で議論してもええと思うんやわな。だけど、それもいやいや1年前倒しも決められて、調査した結果、課題もあるのに、それは課題は置き去りにしていつてええというなら、それは1年早く終わるということに対してどういうふうに私らや市民に説明を尽くすんやという話やと思うで。議会も責任を持つのかという、持たないかんやろうし、そうすると、やっぱり調査特別委員会の中で評価と検証はきちっとしておいて、やっぱり1年前倒しはおかしいねという議論があつてもええやろう。

○ 諸岡 党委員長

それはあつていいんですが、今この場で何を議論していただきたいかという、今後のこの委員会の進め方なんですね。

きょうは少なくとも明確になっておりますのは幾つかの宿題が出ました。その宿題というのはこれまで積み残してまだ完了していない事業に対してどのような課題があつてどう考えてきているのか、そういったものを次回提出していただくという宿題が出ました。次回それが出てきます。それが12月20日です。

今回はこの第2回の策定委員会の報告ときょうの宿題、これについて議論を行つていくと。

その上でそれ以降、――年明けて1月以降になりますけれども――3月までどのようにこの会議を進めていこうかということを経験していただきたいんです。

その過程の中で、これだけ積み残しがあるのが明確になってきているんだから、総合計画、ちょっと早いんじゃないのという結論をこの委員会の、――来年4月以降はまたメンバーはかわりませんが――3月の最終のときに委員会としてその結論を出すのならそれはそれで私はありだと思いますが、きょうのスタートの段階でそれはちょっとやめていただけないかなと思うんですよ。

入り口のところで議論は早いんじゃないかという話ですね。

○ 小林博次委員

議決した中身は特別委員会を設置するということが議決されたので、1年前倒しするとかせんとかというのは各派代表者会議とかほかの場所で説明があった。

これはそういうことなんやけど、きょうの論議でいくといろんな問題があって、1年前倒しする理由をきちっと提案するという、このことを説明するということやから今度この次のこの委員会かどうかは知らんけど、そこで全体が納得いかんということであれば、ちょっと見直したらどうという話になるやろうし、そのまま論議しようかということになればそのまま論議していくことになるやろうし、これはやっぱり議論も今までしてきたわけやから、今までの議論は議論として全体としては1年前倒しすると言うのなら相当な理由だけ出してもらって、進めていったらいいと思うんやけど、そんなんではあかんのかな。それでええわな。

○ 諸岡 党委員長

そうしたらちょっとまとめさせていただきます。

次回12月20日の会議においてはきょうでできた宿題、市民に対して大義名分という部分と今までの積み残し、課題の洗い出し、これをきちんと報告していただく。

そして、もう一つが第2回策定委員会の報告と、この内容について次回会議を行いまし、そこで出された新たな課題について、年が開けてから1月、2月に議論を重ねて最終3月の段階で一度中間報告まではいかないけれども、最後の段階、3月の段階で前期の報告というものをつくっていくというそういう方向性でこの会議を進めていくというのでよろしいですか。

(なし)

○ 諸岡 党委員長

では、そのような流れて今後進めていきます。

○ 小林博次委員

それと、前回、8年前の特別委員会と違うのは、きちっと今までの行政施策は総括して新しい時代にやっぱり向かう問題提起がなされてくるというふうに理解しているわけね。

だから、特別委員会の中では総括部分をきちっとしたやつを出してもらって、これは別に庁内論議をしたかせんか、そんなことは関係ないけど、やっぱり出してもらって、せんとあかんと思ったのは、例えば少し歯抜けになっておるところがあるのやわ。

ここで言うともた時間がかかるで怒られるけど、例えばまちをスラム化するというのは市営住宅なんや。まちをスラム化して、この辺で言うたら三和商店街、JRの駅なんや。そうすると、活性化というキーワードで商業振興してきたのに何やっていうのをきちっと総括する、まちをスラム化して何やというのはやっぱりしておかんと新しい時代には入りにくいよという、ほかのこともたまたま一つか二つか出したけど。

だから、全体をやっぱりこれでよかったんかというのをきちっと見てもらって、新しい時代に向けて何をせないかんのやと、何を捨てて、何を新しく取り入れてということをやらんとあかんと思っておるんで、そのあたりの議員間のコンセンサスが要するというのはかなり大事な部分やろうなと。そのことがきちっとできれば早くいっても、遅くいってもきちっと報告を出せばええやないのということにはつながってくる可能性があるよな。これも勝手なことを言うたかな。個人的な意見やな。

#### ○ 諸岡 党委員長

そういったことも踏まえて今後進めていきたいというふうに思います。

では、きょうはこれで終わりとしますが、よろしいですか。

(なし)

#### ○ 諸岡 党委員長

お疲れさまでした。ありがとうございました。

次回は12月20日10時からです。よろしく申し上げます。

15 : 42 閉議